



五つ目「わ」

和・輪・話・我・笑



京都府医師国民健康保険組合理事長

立入克敏 氏

「今、午前の診療（朝9時開始）が終わったところなんだよね」。時計を見ると午後3時。昼食もとらず、そのまま診察室で取材に応じてもらった。物腰が実に柔らかい。ジェントルマンといった感じだ。医療法人たちいり整形外科（京都市西京区）の会長である。

3年前、息子さんに院長を譲ったとはいえ、今も週2回診療にあたる。スポーツ医学、リハビリテーション医学の専門家としても著名で、日本整形外科学会名誉会員である。本会の副理事長でもあり、対外的な役職が数多く、多忙な毎日だ。

整形外科はチーム医療です

「整形外科は、骨や関節、筋肉など身体を支えたり動かしたりする運動器の疾患を診断・治療するので、根本的に治すためには医者だけではだめなんです。専門職の理学療法士さんをはじめ



全てのスタッフがチームとして取り組む必要がある科目なんです」スポーツによる外傷（けが）や野球肘などに代表される障害（故障）に対する治療やリハビリテーションに長年取り組んできた。児童や生

徒らのスポーツ外傷・障害の増加に対し、学校の定期健診に運動器検診が2年前に追加されたが、専門家としてその一翼を担ってきた。「野球肘を抱えていても子どもたちは投げたくてたまらないのです。身体面はもちろん彼らの心のフォローもしながら治療しなければいけないのです」。スポーツに関わる子どもたちをスポーツ障害から守るNP
O 法人京都運動器障害予防研究会の理事長でもある。



「スタッフから、僕は診療が遅いと言われるんですよ」と笑った。「画像ばかりを見ている医者が最近多いように思う。僕はね、看護師さんの予診や患者さんの身体に触れて診ることを大切にしたいと思っています」。モットーは信頼される医院。「そのために五つの『わ』和（人の和）・輪（人の輪）・話（話し上手は聞き上手）・我（我を磨こう）・笑（笑いは人の薬）をスタッフ全員の合言葉にしています」と教えてもらった。

「健康法？ 患者さんには運動しなさいと言っているんだけど、好きなゴルフもあまりできないので一番つらい質問ですね」とこちらは苦笑い。

「週に1回、プールで水中運動していることぐらいかな。心の健康法ではケセラセラ。やるだけのことをやったらくよくよしないこと。僕より年輩の方がたくさん来院されますが、そうおっしゃる人が多いですね。診療しながら逆に人生の先輩に健康法や生き方について教えてもらっています」

「せいけい」に凝っています

「整形は仕事ですが、趣味として今、もう一つの『せいけい』に凝っています。それはね、星空と景色と一緒に写す『星景写真』。こんな写真を撮りたいんです」と、診療用のパソコンをインターネットにつなぎ、星景写真の魅力を目を輝かせて語ってくれた。

「そうそう、僕の好きな言葉はね、『和して同ぜず』です。お忙しい中、ありがとうございます。せんえつですが、奥様とのバスツアーも忘れずに実行してくださいね。」

